

2019年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史 B		学年	2
				コース等	AB文系	
	使用教科書		『詳説日本史 改訂版』 山川出版社		履修単位数	5
学習目標	<p>・グローバル化が進んでいく中で、我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p> <p>・歴史的思考力や、未来を見据える力を養うことが地歴科の目標であるので、知識を活用する応用力を身につける。</p>				評価の観点	<p>定期試験の結果、出席状況・提出物・小テストを中心に、授業態度や発問に対する解答などを踏まえて総合的に判断する。</p>
授業計画						
月	単元・教材		学習内容			
4	第2章 律令国家の形成 5 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化		<ul style="list-style-type: none"> ・1年生で学んだ内容を復習する。 ・藤原北家の発展と、その政治体制の特徴を理解する。 ・日本独自に成熟した国風文化の特徴と、それまでの文化との相違点の把握する。 ・これまでの土地政策との相違点を理解・整理する。 ・桓武平氏や清和源氏の発展の過程を考察する。 			
5	1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士 《第1回定期試験》					
6	第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭		<ul style="list-style-type: none"> ・「古代史」と「中世史」の相違点を考察する。 ・天皇親政と院政の相違点を考察する。 ・桓武平氏と清和源氏がどのように政権を獲得していったかを理解する。 ・武家政権の特徴を理解し、貴族社会との比較を試みる。 ・対外戦争による国内外への影響を考察する。 ・武家政権下における文化、特に鎌倉仏教を細かく考察し、相違点を理解する。 ・武家政権下における天皇や貴族の動向を理解する。 			
7	2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会					
9	4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化 《第2回定期試験》					
9	第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立					
10	2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化		<ul style="list-style-type: none"> ・目まぐるしく変化する政権や、その特徴をそれぞれ理解する。 ・中世の外交を、古代の外交と比較して共通点と相違点をそれぞれ探る。 ・この時代の農民の生活を理解し、武家政治とどのようにかわっていったのかを考察する。 ・時期のより特徴や流行が異なる、室町時代の文化を、大局的に理解する。 ・それまでの武家支配と、戦国大名の支配体制とを比較し、考察する。 			
11	4 戦国大名の登場 《第3回定期試験》					
12	第6章 幕藩体制の成立 1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造		<ul style="list-style-type: none"> ・日本とヨーロッパ諸国の交流の原因と、その内容を理解する。 ・織田信長と豊臣秀吉の勢力拡大の過程、政策の内容、およびその時代の文化をそれぞれ細かく理解する。 ・徳川家康の勢力拡大と、その政治体制の構築の過程と内容を理解する。 ・江戸幕府の政治体制を理解し、それまでの武家政権との比較を試みる。 ・江戸幕府の宗教、朝廷、外交の統制をそれぞれ理解し、特に外交についての政策やその過程を大局的に理解する。 ・徳川秀忠、徳川家光、徳川家綱、徳川綱吉、徳川家宣、徳川家継といった歴代将軍の政策内容を比較し、それぞれの理解に努める。 			
1	第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 《第4回定期試験》					
2	2 経済の発展 3 元禄文化					
3			<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の庶民の活動や、発展の過程を理解する。 ・庶民が中心となった江戸時代の文化に対して考察する。 			
副教材	『最新日本史図表 初訂版』 第一学習社 『日本史B 詳説日本史 改訂版 10分間テスト』 山川出版社					

2019年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	世界史B	学年	2
				コース等	AB文系
	使用教科書		『世界史B』東京書籍	履修単位数	5
学習目標	世界史への興味・関心を高め、主体的に探究していく態度を身につける。世界史の大きな枠組みと流れを、地理的条件や日本の歴史とも関連付けながら理解する。 現代社会が直面する諸課題について、歴史的観点から考察し、主体的な追究を通して認識を深める。			評価の観点	定期試験の素点を軸に、小テストや提出物の成果、授業での積極的な参加、授業外での世界史に対する取り組みなどを総合的に評価する。
授 業 計 画					
月	単元・教材	学 習 内 容			
4	第1編 さまざまな地域世界 序章 文明以前の人類	人類の進化の過程について、語族なども含めて学習する。			
5	第1章 オリエント世界と東地中海世界	新石器時代の到来、農耕と牧畜の始まりと農耕文化の伝播などについて理解する。			
	第2章 地中海世界と西アジア	メソポタミア・エジプトから古代ギリシアまでの展開、文化の特徴を理解する。			
	《第1回定期試験》				
6	第3章 南アジア世界	ローマの共和政の特徴と、支配の拡大に伴う社会の変化、キリスト教の拡大を、ローマ帝国との関連も含めて理解する。			
7	第4章 東アジア世界	インダス文明の特徴、マウリヤ朝やクシャーナ朝の発展、インド洋交易の発展と南インド世界の関連を理解する。			
	第5章 中央ユーラシア世界	黄河文明の成立、殷や周の国家体制と政治の特徴、春秋・戦国時代の社会の変動、諸思想の出現について理解する。			
9	第6章 東南アジア世界	スキタイや匈奴など騎馬遊牧民の中央ユーラシア世界における役割を理解し、シルクロードを舞台とした人やものの交流について学習する。			
	《第2回定期試験》				
9	第2編 広域世界の形成と交流	東南アジア世界の海域世界としての特質を理解し、海の道の開通と東南アジアの国家形成を関連づける。			
10	第8章 イスラーム世界の形成	イスラーム教成立の経緯とウマイヤ朝やアッバース朝の成立の過程、統治の特色について理解する。			
11	第9章 ヨーロッパ世界の形成	ビザンツ帝国の動向、フランク王国とローマ教会の提携により西ヨーロッパ中世世界が形成されたことを理解する。			
	《第3回定期試験》				
12	第10章 東アジア世界の変容とモンゴル帝国	唐滅亡から宋の成立にいたる時期の東アジアの変動について、契丹や女真など北方民族の動きに注目しながら理解する。			
1	第11章 海域世界の発展と東南アジア	モンゴル帝国の体制、モンゴル帝国時代の東西交流について理解する。			
2		南シナ海交易の発展について、中国商人の活動を中心に理解する。			
	《第4回定期試験》				
3	空間軸からみる諸地域世界	インド洋交易におけるムスリム商人の果たした役割を理解する。 地中海交易とイタリア商人の活動を、ムスリム商人との関連も含めて理解する。			
		マルコ＝ポーロの『世界の記述』に記された都市や地域の位置を書き込み、それぞれの生活の違いやその背景について調べる。			
副教材	・『グローバルワイド 最新世界史図表』 第一学習社 ・『要点マスター整理ノート 世界史B』 東京書籍				

2019年度 シラバス

教科	地歴公民	科目	倫理	学年	2
				コース	AB文系
	使用教科書	『高等学校 新 倫理 改訂版』 清水書院		履修単位数	4
学習目標	先人の思想を学ぶことにより、自らの生き方を積極的に考え、自分とは何者であるかを考察し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。 人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。			評価の観点	定期試験の結果、出席状況・提出物・小テストを中心に、授業の態度や発問に対する解答などを踏まえて総合的に判断する。
授 業 計 画					
月	単元・教材	学 習 内 容			
4	1. 現代に生きる自己の課題 (1) 人間とは何か (2) 青年期の課題と自己形成	・「人間の定義」について、他の動物との違いと比較しながら考察する。 ・学者が提唱した学説をもとに、青年期の特徴を学習する。 ・自分らしさとは何かということを心理分野から考察する。 ・哲学とうのは、どのようにして生まれたのかという経緯を学習する			
5	2. 人間としての自覚と生き方 (1) 人生における哲学	・ソクラテス・プラトン・アリストテレスそれぞれの哲学の意義について考察し、それぞれの哲学がどのように展開していくかを学習する。 ・ヘレニズム時代の人々が哲学を通し、どのようにして幸福を見いだすようになったのかを学習する。			
《第1回定期試験》					
6	(2) 人生における宗教 ・キリスト教-愛の宗教 ・イスラーム-啓示と戒律の宗教	・キリスト教・イスラーム・仏教が誕生したきっかけと、それぞれの教えがどのように世界各国に展開されていったのかを学習する。 ・各宗教の現在の状況について、グループ学習でまとめる。 ・中国思想が誕生した歴史的背景を踏まえながら学習する。			
7	・仏教-智慧と慈悲の宗教 (3) 人生の知恵	・諸子百家のそれぞれの教えの共通点・相違点を比較しながら学習する。 ・諸子百家の教えが現在どのように生活に浸透しているかグループ活動を通して、理解を深める。			
9					
《第2回定期試験》					
9	3. 現代社会と倫理 (1) 現代の倫理的課題	・近代化・科学革命の意義について学習する。 ・ルネサンス・宗教改革が当時の人々にどのような影響を与えたのかを学習する。			
10	(2) 現代に生きる人間の倫理 ・人間の尊厳	・人間はいかに生きるべきか、人間とは何かについて、思想家の残した言葉を通して考察する。			
11	・自然や科学技術と人間とのかかわり ・民主社会における人間のあり方	・ベーコンとデカルトの思想を理解し、他の思想家にどのような影響を与え、展開されたのかを学習する。 ・ホブズ・ロック・ルソーの思想を比較しながら学習する。			
《第3回定期試験》					
12	・自己実現と幸福	・幸福の追求について、カント、ヘーゲル、功利主義、プラグマティズムの思想を手がかりに考察する。			
1	・個人と社会とのかかわり	・資本主義・社会主義を比較し、両者のメリット・デメリットを考察する。 ・技術革新により起きた人間疎外を克服しようとする実存主義について、その意義と他の思想家にどのように受け継がれていったのかを学習する。			
2	・現代における理性の問題	・科学の進歩によって、人々や環境はどのような影響を受けているのか、また、そのことに関する課題について学者の思想を通じて考察する。			
《第4回定期試験》					
3	5. 現代の諸課題と倫理	・現在、世界で社会問題となっている内容を中心に学習する。			
副教材	『最新図説 倫理』 浜島書店				

2019年度 シラバス

教科	地歴公民	科目	現代社会	学年	2
				コース	AB理系
	使用教科書		『現代社会』東京書籍	履修単位数	2
学習目標	<p>・人間の尊重と科学的な探究の精神に基づき、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深める。</p> <p>・現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。</p>			評価の観点	<p>定期試験の結果、出席状況・提出物・小テストを中心に、授業態度や発問に対する解答などを踏まえて総合的に判断する。</p>
授 業 計 画					
月	単元・教材	学 習 内 容			
4	現代社会の特質	<p>・現代社会における、地球環境・資源・エネルギー・科学技術・情報など様々な問題について学ぶ。</p> <p>・心理学の立場から、「青年期」に特有の課題について学ぶ。</p>			
5	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境/資源/技術/情報化 現代社会と青年の生き方 ・現代社会と青年 ・青年期の発達課題 ・自己形成と社会の関わり ・進路と生きがいの創造 				
《第1回定期試験》					
6	よりよく生きることを求めて	<p>・「よりよく生きる」というキーワードから、哲学・宗教・文化について、日本や世界でどのようなことが考えられてきたのかを学ぶ。</p> <p>・民主主義を実現するための民主政治の歴史と現在の特色について学ぶ。</p> <p>・基本的な人権が確立されるまでの歴史的背景を学習する。</p> <p>・世界各国の議会政治の特色について学習する。</p>			
7	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学/宗教/近代科学 人間の尊厳/人間性/文化 				
9	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法と民主政治 ・民主政治とは ・基本的人権 ・世界の政治体制 				
《第2回定期試験》					
9	日本国憲法の基本原理	<p>・日本国憲法の特色と、憲法に基づきどのような政治が行われているのかを学ぶ。</p> <p>・日本国憲法によって保障される国民の権利にはどのようなものがあるのか、また新しく必要とされている権利とはどのようなものなのかを学習する。</p> <p>・自衛隊の存在意義や、国際社会における日本の役割とは何なのかを考え、これからの日本の姿について学習する。</p>			
10	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の3つの原理 ・基本的人権の保障 ・新しい人権の広がり ・平和主義と安全保障 				
11					
《第3回定期試験》					
12	日本の政治機構	<p>・議会政治の中心である政党と、議会の代表者を決める選挙の仕組みについて学習する。</p> <p>・日本の三権分立の構造について学習します。立法・行政・司法のそれぞれの役割を理解する。また、地方自治に関して、地域の抱えている問題や格差も踏まえて学習し、地方が活性化する為には何が必要かを模索する。</p>			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・国会と立法 ・内閣と行政 ・裁判所と司法 ・地方自治 				
2					
《第4回定期試験》					
3	現代政治の特質と課題	<p>・18歳から投票権を有すること、若い世代が投票を行う意義等について考える。</p>			
副教材	『最新現代社会』第一学習社				